

平成27年度 第2回福岡市総合教育会議

○日 時

平成27年11月9日(月)午後1時30分～2時32分

○場 所

博多小学校1階会議室

○出席者(7名)

市長 高島 宗一郎

教育委員会 八尾坂 修 (委員長)

松原 妙子 阿部 晶子

木本 香苗 町 孝

酒井 龍彦 (教育長)

○事務局

[総務企画局] 舟越 企画調整部長

[教育委員会] 橋本 教育次長 橋爪 理事

坂本 総務部長 小田原 総務部部長

小野田 教育環境部長 徳成 教育支援部長

池田 指導部長 相良 教育センター所長 ほか

○議事次第

1 開会

2 市長挨拶

3 教育委員長挨拶

4 議事

(1) 協議事項

ア 学力向上のためのさらなる取組の推進について

・平成27年度全国学力・学習状況調査の結果概要

・学力向上のための教育課程の見直しについて(案)

イ 教育NEXTの今後の展開について

- ・国際教育 礎プラン 進捗状況
- ・アントレプレナーシップ教育 ～ふくおか立志応援プロジェクト～ 進捗状況

(2) その他

5 閉会

○協議・調整が行われた事項

1 学力向上のためのさらなる取組の推進について

教育委員会から、「平成27年度全国学力・学習状況調査」の結果分析に基づく課題や「教育課程の見直し」による学力向上のための今後の取組について説明を行い、学習を進める中で、ただ教えられるだけでなく、子どもたちが教え合う「学び合い」が大切であることなど取組の方向性について認識が一致した。

2 教育NEXTの今後の展開について

①国際教育 礎プラン

中学校・高校でのオールイングリッシュ授業の取組状況、小学校英語の早期化へ向けた低学年向けの英語学習プログラムの試行やICTを活用した遠隔授業の配信などの今後の取組について授業風景の映像を視聴しながら説明を行い、取組の方向性について認識を共有した。

②アントレプレナーシップ教育

スポーツ選手などの著名人による「夢の課外授業」や、起業家や地域の様々な職種の方々による社会人講話の実施状況、学習後の児童生徒の明らかな意識の向上などの成果について説明を行い、今後の取組の方向性について認識を共有した。

【舟越企画調整部長】 定刻となりました。これより、第2回福岡市総合教育会議を開催いたします。

私は、本日の進行を務めさせていただきます総務企画局企画調整部長の舟越でございます。どうぞよろしくお願いいたします。

それでは、開会に当たりまして、高島市長からご挨拶をお願いいたします。

【高島市長】 皆様、こんにちは。

教育委員会の皆様におかれましては、日ごろから福岡市の教育行政の推進に多大なるご尽力を賜りまして、改めてこの場をお借りして感謝を申し上げたいと存じます。

今日は、今年度2回目の福岡市総合教育会議ということでございまして、1回目は6月に開催をさせていただきました。そのときには、不登校の子どもへの支援、また、いじめの未然防止の話、それから平成27年度新規事業であります「教育NEXT」の取組について、教育委員会の皆様方と意見交換をさせていただいたわけでございます。その際、「教育NEXT」の取組について、英語が使える中学生日本一を目指して、新たに「国際教育礎プラン」に取り組んでいくということ、それから、夢と目標に向かってチャレンジをする、たくましい精神を持つ子どもたちを育てていきたいということから、新たに「アントレプレナーシップ教育」に取り組んでいく、こうしたことをご説明いただいたわけでございます。

今日は、そうした取組の進捗状況をぜひお聞かせいただきたいということと、それから今後の方向性について、さらに意見交換もさせていただければと考えております。

また、教育委員会のほうで検討を進められております学力向上のための教育課程の見直しについても、目指すべき方向性をぜひ共有して、連携を一緒にさせていただければと考えている次第でございます。

今日の意見交換を通して、さらなる教育行政の推進につながればと考えておりますので、どうぞよろしくお願いいたします。

【舟越企画調整部長】 続きまして、八尾坂教育委員長からご挨拶をお願いいたします。

【八尾坂委員長】 それでは、福岡市教育委員会を代表いたしまして、一言ご挨拶を申し上げます。

グローバル化や情報化の急速な進展など、教育を取り巻く環境が大きく変化しておりますけれども、教育委員会におきましては、教育振興基本計画の「新しいふくおかの教育計画」の、平成26年度からの後期実施計画の推進に鋭意取り組んでおります。

その中で、教育分野の柱をなす確かな学力の向上につきましては、平成26年度から教育課程の見直しについて検討してまいりました。このたび、有識者による懇話会での意見もまとめられました。また、11月に見直し方針を決定する予定でございますので、この時期を捉え、確かな学力の向上に資する今後の取組について、市長と施策の方向性を共有し、直接、意見交換したいと思っております。

また、先ほど市長がおっしゃった「教育NEXT」の取組につきましても報告させていただきまして、今後の施策や展開などを市長と共有し、よりよい方向に教育行政を推進していきたいと思っております。どうぞよろしくお願いいたします。

【舟越企画調整部長】 それでは、議事に移ります。本日は、二つの協議事項について意見交換をお願いいたします。

一つ目の「学力向上のためのさらなる取組の推進」につきましては、教育委員会よりテーマの申し出があったものでございます。本件につきましては、平成26年度から検討してきた教育課程の見直しについて、懇話会での検討意見がまとめられ、11月中に見直し方針を決定したいと考えていることから、この時期を捉え、教育分野の柱をなす確かな学力の向上に資する今後の取組を着実に推進するため、市長と施策の方向性を共有するなど、直接、意見交換を行う必要があるというものでございます。

協議事項の二つ目は、第1回総合教育会議で取り上げました平成27年度新規事業の「教育NEXT」の取組について、その実施状況を踏まえた今後の展開について、教育委員会と意見交換をしたいということで、市長から設定をさせていただいたものでございます。

それではまず、「学力向上のためのさらなる取組の推進」について、教育委員会事務局より説明をお願いいたします。

【池田指導部長】 指導部長の池田でございます。座って説明をさせていただきます。

まず、早速ですが、資料1をご覧ください。

まず初めに、平成27年度全国学力・学習状況調査の結果概要についてご説明いたします。

今年度は、国語と算数・数学に理科が加わりまして、3教科5分類の調査となりました。国語と算数・数学はAとBの二つに分類され、Aは主として知識に関する内容、Bは主として活用に関する内容でございます。資料として、次のページに、小学校、国語と算数のA、Bの問題例をお示ししておりますので、後ほどご覧ください。

結果は、小学校では、5分類中、国語A、理科の2分類で全国平均を上回り、国語B、

算数Bは全国平均を下回りました。中学校では、国語A、B、数学B、理科の5分類中4分類で全国平均を上回りました。

経年変化で見ますと、資料左下の2の(2)のグラフで示しておりますように、小学校では回復傾向、中学校では昨年度の好結果を維持していると捉えております。

次に、資料の右上3の今後の課題といたしましては、次の3点を上げております。

1点目は学校の課題に応じた取組の充実でございます。グラフにありますように、昨年度平均正答率で、④の努力を要するという段階にあった学校は、全ての分類で今年度伸びが見られます。一方で、昨年度結果が良かった学校では、今年度あまり伸びが見られませんでした。

2点目は、授業におけるまとめと振り返りの徹底と発展的な学習の全校実施でございます。質問紙調査で、授業内容がよくわかると回答した児童生徒が、中学校数学以外の全てにおいて全国平均を下回っております。さらに、発展的な学習に取り組む学校の割合は、全ての教科で全国平均を下回っております。

3点目は、算数・数学の指導の強化でございます。各教科の観点ごとに全国平均と比べてみますと、小学校の算数において知識や技能に課題があり、同様に、中学校数学も関連する観点で全国平均を下回っております。

以上の結果分析をもとに、4の今後の取組の方向性としまして、各学校では、児童生徒の一人ひとりの課題に応じたきめ細かな指導の徹底を図ってまいります。具体的には、教えることと学ばせることを区別するなど、授業改善の三つのポイントをより一層徹底させ、来年度からの教育課程の見直しにより生み出す時間で、補充的な学習とともに、発展的な学習を全ての小中学校で実施してまいります。

また、教育委員会の取組といたしましては、各学校の学力分析をまとめたシートによる学校指導を充実させ、さらに、教育課程の見直しと連携した学力向上の取組を推進するために、効果的な教材の提供や具体的な指導についての事例紹介などにより、各学校がより一層取組を充実できるよう支援してまいります。

次に、資料の2をご覧ください。2ページ、2枚後になるかと思えます。

続きまして、学力向上のための教育課程の見直し案についてご説明いたします。この取組は、先ほど述べました児童生徒の学力状況や課題、小中学校の普通教室への空調設備を整備すること、全国的な動向として土曜授業の実施が進んでいることを踏まえまして、児童生徒一人ひとりのさらなる学力の向上を図るとともに、夢を育み、心を育てることを

目標にしております。

3の見直しの内容につきましては、各学期の始業日や終業日を見直すことと、年間4回の代休日を設けない土曜授業を実施することにより、年間8日の授業日数を生み出し、その時間を活用して、学力向上に取り組むものでございます。

具体的な取組の内容についてご説明いたします。通常の授業では、カリキュラムに沿って授業を先に進めていきますが、この見直しによって生み出された時間は、授業を先に進めるのではなく、既に学習した内容について、児童生徒の一人ひとりの課題に応じた補充的な学習や発展的な学習を行うためのものでございます。

資料右上の5に例としまして、小学校3年の算数、余りのある割り算でお示しております。左側の補充的な学習では、学び直す、繰り返す、積み重ねるという三つの方法で、児童の基礎的な学力の定着や学力課題の克服に取り組めます。右側の発展的な学習では、深める、広げる、自ら進めるという三つの方法で、基礎的な学力が身につけている児童に対して、さらなる学力の伸長に取り組めます。

児童生徒は通常の授業では十分にできなかった弱点の克服に集中的に取り組んだり、さらに高度な学習に挑戦したりすることが可能となります。

最後に、6の代休日を設けない土曜授業についてでございますが、実施時期を1学期に1回、2学期に2回、3学期に1回とし、そのうち2学期の1回は全市一斉で実施したいと考えております。代休日を設けない土曜授業は、学校と家庭、地域が連携して児童生徒を育む、いわゆる「共育（ともいく）」を推進する絶好の機会と捉えておりまして、写真で四つの例をお示しております。左上から、地域の方に講師として加わっていただく道徳授業の推進、家庭や地域と連携して取り組む地域清掃活動、起業家を招いてのアントレプレナーシップ教育、外国人の英語講師による国際教育などがございます。

以上のような取組を通して、児童生徒一人ひとりの学力向上を図るとともに、夢を育み、心を育てる教育の充実に取り組んでまいります。ご説明は以上でございます。

【舟越企画調整部長】 それでは、意見交換をお願いいたします。時間でございますが、14時頃を目途とさせていただきます。

それでは、高島市長からお願いいたします。

【高島市長】 資料1から見ますと、特に中学校では全ての部分で、福岡県に対してはもちろんです、全国平均よりも上回っているということですし、小学校でも非常に成果が出てると思っておりますので、教育委員会の皆さん方のご努力に敬意を表する次第で

ございます。

例えば、成績が上がっているところとか、もしくは前回あまり結果が良くなかったところが良くなっているという説明もありましたけれども、どういう取組を具体的に行ったら良くなったという分析ができてますでしょうか。

【池田指導部長】 全ての学校が学力向上推進プランというのを作っております。その中の取組を分析しますと、日々の授業改善はもちろんでございますが、それを補うための家庭学習の充実を図る、家庭との連携した取組ですとか、あるいは放課後の補充学習ですとか、そういった学習を工夫している学校が多いようでございます。

【高島市長】 家庭ということは、やっぱり親の協力とかも当然仰ぎながらということですか。

【池田指導部長】 はい、そうです。

【高島市長】 例えば、秋田は学力が日本一とよく言われておりますけれども、福岡がさらに学力を伸ばしていくときに、どういうことが具体的に必要だなとか、そういうターゲットはありますか。

【池田指導部長】 前回の総合教育会議でも秋田のことをご指摘いただきましたが、やはり秋田の様子を見てみますと、まず、学校では全ての教員が協力して授業改善を進めるとともに、効果が上がるまで徹底的に実践しているという取組が紹介されております。また、家庭や地域の学校に対する協力の度合いが高いという結果もあらわれております。

まとめますと、学校、地域、家庭、これがやっぱり一貫して子どもたちの教育に取り組んでいただいているということでございまして、教育委員会、あるいは学校では校長会等がリーダーシップをとって、比較的長い年月をかけて、これまで計画的に実施しているところが、やはり学ぶべきところだと考えております。

【高島市長】 学校であり、家庭でありというお話を伺って、そうすると家庭の格差というか、ご家庭でご両親が熱心に子どもたちに目を配って、気を配って、そして、あるときは怒りながら、あるときは寄り添いながら机につく習慣を家でもつけたりとか、こういったことができるご家庭とそうではないご家庭で、さらにいわゆる教育格差というものが出てくるのかなということも心配するんですが。

ただ、もう一方で、学校のエアコンが全ての小学校に完備されまして、来年からは中学校ということになって、非常に教育の環境自体、学校の環境が良くなって、これは、生徒さんも喜んでいただくとお思いますし、それ以上に先生が喜んでいるという話もありますけ

れども。何はともあれ、福岡市の経済、都市をまず成長させて、そして、そこで生まれた果実で生活の質を良くしていくという好循環の一つだと思っています。

そこで、今、夏休みを短くして学習の時間に充てようというチャレンジもいよいよ始まっていくわけですが、ここで生まれる時間とか土曜日授業で生まれる時間で何をやるのかというのが大事になってくると思うんです。今のお話を伺っていると、前に進むというか、応用編をさらに解かせるというよりは、定着を図るような部分ということですよ。

【池田指導部長】 はい。

【高島市長】 さっきの家庭という部分がうまくいっているところは、それでどんどん回ってくると思いますけど、家庭というところで、なかなか定着が図れないという部分に関しては、こういう時間を使って、特にそういう子にしっかり教えるような形ではできませんかね。

【池田指導部長】 やはり今後の学力の向上には、子どもたち一人ひとりの実態にしっかり目を向けていくことが大切であろうと考えております。そのための教育課程の見直しと捉えておまして、同じ学習内容でも、もう一遍振り返ったほうがいい子どもたちに与える学習と、それから、先ほどもご説明しましたが、さらに、例えば、やったところについて問題を自分で作ってみて、お互いに解き合うとか、そういった発展的な学習をする子どもたちと、幾つかの子どもたちに分けた形で細かく指導していくことが、この生み出した時間の活用のポイントだと考えております。

【高島市長】 ちなみに、土曜日授業については、全国で土曜日授業の報道、ニュースとかが増えてきてるんですが、その使い方として、もちろん今おっしゃったような使い方でもしていただいていると思うんですけど、ほかに何か個性的な使い方してるとか、うまくいった事例というのはありますか。

【池田指導部長】 やはり土曜日授業ですので、地域や保護者の方に学校に入ってきていただいて、子どもの様子を見ていただくと、それが結局、家庭や地域での接し方につながっていったりすると思いますし、もう一つは、そういう地域の大変有能な人材をもっともっと学校が活用するような、そういう取組を生み出していくことが大事だろうと考えております。

【高島市長】 ちなみに、先ほどの写真の中でも、地域の方が実際に道徳教育とかでも授業をしているという姿があったと思います。例えば道徳とかもそうですけど、どう教えていくのかという部分は、頼まれた方に対する何か、基本的フォーマットじゃないんです

けれども、完全に1時間あるんで自由にどうぞというだけではない、何かガイドライン的なものはあるんですかね。

【池田指導部長】 もちろん、打ち合わせはさせていただくと思うんですが、それよりも、こういう場でお話ししていただくのは地域で何らかの、例えば子どもたちの見守り活動をやっているとか、公民館活動に子どもと一緒に取り組んでいるとか、あるいは、その地域のお祭りなどを推進していただいている方々ですので、そのお気持ちですね。日ごろ、例えば、子どもたちの見守りをどんな気持ちでやっていたりするのかなとか、地域の行事というものをどう大事に思っているのかなとか、そういうことを直接、地域のそういう方々の言葉で伝えていただく。それが、子どもたちに、例えば伝統文化の大切さであるとか、思いやりの大切さであるとか、そういうものを実感させていくことにつながるのではないかと思います。

【高島市長】 それから、チャレンジマインドの話とかそういうのも含めて、今、子どもたちの環境がどんどん変わってきてる中で、先生方自身も常にアップデートして敏感になっていかなきゃいけないと思うんですよね。ですから、何十年間、同じノートというわけにもなかなかいかないというか。

ですから、ぜひこれは要望として、チャレンジマインドというのであれば、やはり先生方自身もそういうマインドになっていないとなかなか教えることができないかもしれないから、そういう教員の資質の向上を。

それから、この中で、授業の内容がよくわかるとした児童生徒が中学校数学以外で全国平均を下回るとありますが、要するに、教え方というところも常にアップデートして、よりわかりやすい教え方、よりわかりやすい例え、こうしたものをどんどん取り入れて、先生自身も毎年教え方が、去年よりも今年、今年より来年、良くなっていくような、そういうチャレンジもぜひ検討していただければいいなと。これは要望としてございます。

それから、新しく夏休みが短くなって、春休みが少し増えてというのは、私が小学生だったらブーイングだと思うんですよ。学校で子どもたちの反応とか、エアコンはついて、きっと喜んでいただいていると思うんですが、その辺はどんな感じですか。そして、子どもたちにその説明をきちんとできているんですかね。

【池田指導部長】 これから、学校に対しては、子どもたちも含めてきちんとご説明していかなければいけないと思っていますが、アンケートの中にはやはり子どもたちのほうからも、実は夏休みはいろんな習い事を友達がしているので、なかなか連絡がとれなくて

遊べないんだと。だから、少し短くなると早く会えるようになるので、それだけ友達と接する時間が増えると感じている子どももいるようでございます。そういうところはぜひ広げていきたいと思っております。

また、習ったところをしっかりと定着させることの大切さというのは、私たちのほうから子どもたちにきちんと説明をしていかなければいけないことだと思います。

【高島市長】 さっき、いいなと思ったのが、自分で問題を作ると言いましたよね。脳が開くときって、能動的になったときしか脳は開かないらしいんですね。自分で発言をする、自分で何かを。だから、今こうやって話をしているときは大体脳は閉じてるんですけど、いざ自分が発言するとなった瞬間にだけ脳は開くんです。

【松原委員】 そうなんですか。

【高島市長】 そうなんですよ、実は。脳は、記憶したりとか動いたりするときは化学反応で、電気の反応と化学変化でつながるらしいんですね。能動的になったときだけ脳が活性化してつながるらしいんですよ。だから、聞いているだけだと脳は閉じてて、自分で何か質問しようと思って主体的になるときに、それがつながるらしいんですよ。

だから、授業の仕方とかでもほんとうは、聞くんじゃなくて、じゃあ1回聞いた後に、自分でそれを隣の人に説明するとか、自分が主体的になって人に同じことを説明しようとしたときにすごく定着が図られると。ハーバード大の、教育とかの賞をとった先生のプレゼンを聞いて知りました。私もそんな記憶とかあまりよくないはずなんですが、自分で番組で説明したこととかはやっぱりずっと覚えてたりして、よくそんな覚えられるねと思って。自分でもよくわからなかったんですが、そうかと思いました。自分が責任を持って何か言わなきゃいけないとなった瞬間に脳は働いている、だから短時間で覚えてたのかと思いました。自分で問題を作るということも、ただ受けて解くという受動的な話じゃなくて、自分で問題を作るということは、構造からして自分でもう1回理解をして作らなきゃいけないから主体的になれるので、問題を作る作業を入れるというのはおもしろいなと、いいなと思って聞いてました。

【木本委員】 問題を作るだけじゃなくて、教室の中で今、子どもたちが教え合うということもしているようで、実際に教えるということを通して、理解していることはより理解するようになるらしいんですね。やっぱり一つのクラスの中には、理解力の高い子、そうでない子というのがいて、課題としてもやっぱり基礎力を上げるところから、もっと発展的なところにチャレンジするまで全域あるので、一つの教室の中でもそうやって教え合

うという活動が今新しくどんどんされています。その中で子どもたちの学力が、双方が伸びていけばいいんじゃないかなとは思いますが。

【高島市長】 確かに。そういうのもされているんですね、教え合うという。これはすごくいいらしいですよ。

【酒井教育長】 学び合っというふうに言って、幾つかの学校では実際にやっています。随分前から、木本委員の前任の保護者出身の教育委員さんが非常に熱心で、我々もいろいろな先進地を見てきましたけど、ある程度小規模な学校、小さなクラスのほうがうまくいく例は多いんですけれども、子どもたち同士が教え合うことによって、本当に理解が進んでいきますし、学級集団自体もいい集団になっていきますね。

【阿部委員】 私は、この学び合っというのは、説明するときに自分はここが理解できなかったんだなというところが見つかるのが、すごく自分にとって一番いいところかなと思います。

【高島市長】 だから、学び合っなんですね。

【松原委員】 それと、ちょっと話は違いますが、お母様とかお父様で、昔教職をとられたけど今はそれを生かされてない方に、ちょっとボランティアで授業に入っていたとか、そういういろんな形の助け合っというか、そういうのもあったらいいなと思ってるんですよ。先生お一人で全員を教えるのは難しいじゃないですか。

【八尾坂委員長】 関連して。やっぱり土曜授業の活用とともに、補充学習とかも必要で、保護者にも参加していただいたり、OBとか、高校生なんかも卒業生で時々入ったりという学校もあるようですね。

あともう一つ、やはり福岡市内でも学校間の違いはありますし、あるいは学校内の上位の子と下位と。だから、そういう子に対しての、不利な環境であっても頑張っているような、成果を上げている学校の実態をもう一度洗い直して、学校の雰囲気が違うのかどうか、活気があるとか、学校風土みたいなものを。ポジティブかというのはすごく影響あるのかと。教職員全体が一体になってやっているかというのも、先生方の資質、行動にもつながるのかな、なんて思ったりはしています。

【町委員】 昨年、秋田県を視察に行きまして、そのとき、先ほど市長からもありましたけども、秋田県が成功してるのは家庭の学習がという、向こうの教育委員会のほうからのご説明だったんですが、もう一つ言うと、秋田県は実は全国で一番人口減が厳しいところで、意外と先生方が余っているとは言い方が失礼ですけど、生徒の減り具合に比べて先

生方が意外と先生方が余るといふか、余剰という言い方は失礼ですけど。それで、プラスで教室に入られて、補助で一生懸命に見ておられると。わからない子のところへついておられると。そういったことをされていたので、なるほどなど。これはなかなかある面で上手なやり方だなど。経費という面ではちょっとあれかもしれませんが。実際にわからない部分で、子どもからの自立の意思じゃなくて、教える側からのテクニックとして、そういうことを上手に使っていると。

それを福岡で見たときにどうなのかなという、ちょっとなかなか福岡では当てはまる部分が難しいと思いますけど、学校学校によっていろいろ違いますし、福岡でもそういう先生方がいろいろなところに派遣をされて指導をされてますので、レベルをとにかく、ある程度どんと引くんじゃなくて、一定まで持っていくということが大切じゃないかと思えます。

【阿部委員】 私は、確かな学力の向上イコール自学だと思ってるんですね。自学をするためには、指導もあって、支援もあって、見守りもしていかなきゃいけないんだと思うけれども、1日10分自学をしたら、1週間で大体1時間。ざっと計算すると1年間で52時間勉強することになるので、ちょっと基礎的なことを10分間するだけでも、どこかで差がついてくるのかなとはすごく思っています。

【高島市長】 いろいろご意見ありますけど、確かにそうです。これから教員の数もなかなか増えないという報道もあってるので、確かにこれからお金と人にゆとりがあるわけでもないです。でも、お話をいただいた、資格はあるけれども現場を離れている方の活用、もしくは自学の時間とかであれば、確かに地元の、高校生は自分たちが忙しいかもしれないけども、大学生とかでもいいし、そういう地域人材の活用というところは検討をぜひしてみてください。

【木本委員】 今、実際、中学校によっては、放課後学習会というのを自主的にもう開催されています。地域の方に入っていて、週に2回ぐらい基礎的な勉強を教えますというのはされてるところもあります。

【八尾坂委員長】 私は、夏休みも活用してもいいかと思えます。先生方も来てらっしゃいますので、空いてる会議室か何かを子どものことで使ってもいいかなと思えます。

あと、先生について、校内でもやっぱり指導者になるようなメンター的な先生というのがないと、いくら校内での研修をしても活性化にはつながりませんので、そういう方がいない場合は教育センターなど教育委員会から派遣して時々アドバイスするとか、いろん

な連携は必要になってくるのかなと思います。

【舟越企画調整部長】 よろしゅうございますでしょうか。お時間がまいってございますので、次の協議事項に移らせていただきます。

「教育NEXT」の「国際教育 礎プラン」及びアントレプレナーシップ教育の今後の展開について、教育委員会事務局から説明をお願いいたします。

【池田指導部長】 それでは、資料3をご覧ください。「国際教育 礎プラン」とアントレプレナーシップ教育の進捗状況をご説明いたします。

まず、資料左側の「国際教育 礎プラン」についてでございます。

2の成果と課題に上げております小学校における授業研究は、現在、5・6年生で実施している外国語活動が英語科になることを見据えまして、アルファベットや単語の読み書きを取り入れた授業を行っております。中学校、高校では、オールイングリッシュによる授業を実施しており、生徒は少しずつですが、大きな声で楽しく英語でコミュニケーションをとるようになってきております。

I C Tを活用した授業につきましては、7月に教育センターと小学校をつないで遠隔授業の試行実験を行い、映像と音声による双方向の通信が活用できることを確認いたしましたので、現在、能古小中学校での活用に向け準備を進めておるところでございます。

3の今後の取組といたしましては、小学校1・2年生からの外国語活動の実施や、ベルビュー・チルドレンズ・アカデミープログラムという低学年向けの英語学習プログラムの試行、小学校3・4年生へのゲストティーチャーの拡大など、小学校英語の早期化へ向けた取組の充実を図ってまいります。

さらに、小学校5・6年生の英語の教科化、中学校、高校英語の高度化へ向けた取り組みにつきましても、さらなる充実を図るとともに、I C T活用によります遠隔授業では、モデル授業の配信や学校間交流等の機会を増やしてまいります。

次に、資料右側のアントレプレナーシップ教育についてでございます。

1のこれまでの取組として、チャレンジマインド育成事業では、小学校で、スポーツ選手などの著名人が直接授業を行う「夢の課外授業」を9月から別府小学校など、五つの小学校で行いました。また、全ての小学校で、地域の会社経営者をはじめとした様々な職業の方々による社会人講話を現在実施しております。中学校では10月から、I T関係の起業家などを招いての社会人講話を二つの中学校で行っております。

また、より質の高いキャリア教育を目指すために、ジュニア・アチーブメント教育プロ

グラムによりますCAPSと呼ばれる授業を小学校2校、中学校1校で実施しております。このCAPSは、帽子の販売シミュレーションを通して、経済の仕組みを学びながら、コミュニケーション能力を育てるとともに、意思決定の意味を学ぶ学習でございます。

さらに、全ての小中学校で、ふくおか立志応援文庫の設置を進めております。10月末現在で、小学校92.3%、中学校95.6%が設置しており、年度末までには、全ての小中学校で設置を完了いたします。

2の成果と課題につきましては、小中学校それぞれ、学習後には児童生徒の明らかな意識の向上が見られております。また、子どもたちや参観者の声から、この授業の必要性を感じる感想も得られておるところでございます。

最後に、今後の取組としましては、年度末までに残り全ての学校でこの取組を実施したいと考えております。

説明は以上ですが、この後「礎プラン」、それからCAPSの授業、チャレンジマインド育成事業の学習の様子を、短い時間でございますがビデオでご覧いただきたいと思います。音声がちょっと聞き取りにくくて申し訳ないんですが、よろしくお願いいたします。

(ビデオ上映)

【舟越企画調整部長】 それでは、意見交換をお願いいたします。時間の目安でございますが、14時25分ぐらいまでを目途をお願いいたします。

では、高島市長、よろしくお願いいたします。

【高島市長】 そうですね。今、見せていただいて、まさに今、福岡がスタートアップ特区ということでチャレンジをしているわけですがけれども、大学生ないしは卒業した後に知識として起業のことを学ぶのはちょっと遅いなと感じているところです。やっぱり大事なところは小さいころから、ゼロから1をつくる、そしていろいろなアンテナの中でひっかけを作っていく。そして、全てがうまくいくわけではなくて、多くの場合は失敗するわけですね。失敗しても何度も立ち向かっていくというたくましい心を作っていく、そのためにも若いうちから、早いうちから、アントレプレナーシップ教育というのはとても大事だと思っています。

また、今のCAPSの授業、それから社会人、実際の起業家による講話というのを見せていただいて、すごくいい刺激になったんじゃないかなと。ふだんなかなか、親からも先

生からも聞くことができない。CAPSの授業についても、組み合わせがすごく大事で、本当にやってる人、経験してる人の言葉は全然違うと思うので、そういう意味では、その両方があっていいなと思いました。

今後の課題は、今の聞いた子どもたちはとても刺激になったと思いますけれども、福岡の全ての子どもたちにこれを経験させてあげたいと思って、こういうのを取り入れていくときに、実際に話してくれる講師の確保とかが非常にこれから課題にきつくなってくると思うんですね。さっきの学び合いじゃないですけども、多分彼らも、後輩たちにしゃべって自分を振り返ることによって、自分の初心とか負けちゃいけないなともう1回思い直したりとか、彼らにとってもきつといい場になるとも思うので、その辺は教育委員会の皆さんも、例えばうちの創業とか特区チームの人たちとぜひ連携をとって、こんな人材がいるよという情報とかもどんどん交換し合いながら、また福岡だけじゃなく、よそにもたくさんいますので、そういう起業家たち、どこにどんな人がいるのかという人材の情報もぜひ共有していただければと思いました。

また、ぜひKPI（成果の指標）として前後の意識の違いというのもしっかりチェックをしていただいて、たくましい子どもたちを育てるためにこれからもご尽力をよろしくお願いします。大変期待しております。

それから、英語の教育も見せていただきました。ちょっと1個聞きたかったのが、MARSの影響で、「グローバルチャレンジ イン 釜山」が今年はハウステンボスでしたよね。ハウステンボスで試みて、実際どういう内容で行われて、成果はどうだったのか、教えてもらっていいですか。

【池田指導部長】 今、まとめているところでございますが、ハウステンボスのイングリッシュ・スクウェアというところに英語教育のプログラムがあります。

【高島市長】 それは常設であるんですか。

【池田指導部長】 はい、そうです。NS（ネイティブスピーカー）の方がここにおられて、そこへ子どもたちが何人かグループで行って、一緒に課題を解決していくという活動なんですけど、今回、行わせていただいたハウステンボスの学習は、それプラス、福岡市からもNSを連れてまいりまして、朝とか夜とか、そのNSと事務局の英語担当と一緒につくったプログラムもみっちりやる時間ができました。2泊3日でございましたが、非常に子どもたちにとっては刺激になったという感想が多く得られておりますので、ぜひ新たなそういうプログラムの開発という視点からも、また取り組んでまいりたいと考えており

ます。

【高島市長】 確かに、別の国に行ったほうが異文化交流という点ではプラスはあるものの、当然ネイティブの方とずっと1日中過ごすという環境が、それはそれで作れるのであれば、そういうこともぜひ活用をしっかりといただければいいかなと思います。

また、うちは姉妹都市で、来年オークランド（ニュージーランド）の30周年があったり、あと、アメリカのほうのオークランドもあったりと、実際のネイティブの国もありますので、そういうところとの今後の交流ということも視野に入れつつ、今後、夏季休暇などの長期休暇の間にどういうオプション的なプログラムを作っていくか、さらには伸ばしていくということも考えていただければと。

それから、ICTは能古で今やってるんですよ。ほんとうに、まさに能古とか小呂とか、ネイティブの方がずっと行くには大変な場所は、ほんとうにICTはいいと思います。特に、ネイティブスピーカーの確保は、これから熾烈な各都市の奪い合いになって、特に良質なネイティブスピーカーほど、どんどん採られていくことになってくると思うんですよ。そういうときに、一つオンラインという、私もオンラインの英会話をしてるんですけど、やっぱりネイティブの方とダイレクトにしゃべれるという環境がすぐにできるし、向こう自体がそれぞれプログラムを持っているので、そういうものの活用はぜひ検討していただければと思います。

それから、これは要望として聞いていただければいいんですが、ちょっと能古で思いましたんですけど、あそこは小学校、中学校改修の時期ですよ。うちには今、小中連携があるんですけども、一貫というのはないじゃないですか。ですから、そういうものを、ああいう島とかであれば、ある程度閉ざされた空間の中で小中学校が島でということもあるのと、いわゆる市街化調整区域というのは逆に規制緩和でインセンティブ、お金を入れるんじゃなくて、規制緩和とかで強みを持たせた魅力というのもいいのかなと思ったりするので、そういう、うちではまだやっていないような一貫校的な考え方を、能古の改修の時期に合わせて。あそこも小中がちょうど隣り合わせになっているので、例えば二つを合わせて1.7とかぐらいで、1足す1が2じゃなくて1.7ぐらいできて、かつ、そこにソフトも入れていくことができるのかどうか、せっかくのチャンスなので検討をいただければという投げかけです。

【酒井教育長】 おっしゃるとおり、大規模改造の時期に当たっておりますので、施設的には今の並んでるのを、渡り廊下とかじゃなくて一体化するような形で今プランを。地

元からもご要望が来てますので。

それと、福岡市の場合は小中一貫ではなくて、小中連携でこれまでずっとやってきました。やっぱり連携の一つのデメリットとしては、人口移動が激しいところでは、要するに親の転勤で出て行ったり、あるいは来たときにカリキュラムが合わなくなるんですね、一貫校の場合ですと自由に組みかえてますので。その可能性からすると、能古の場合は、あまり人口の流入出が少ないエリアでありますので、地域のお考えも聞いて、特色が出せるようなことを含めて検討していきたいと思います。

【高島市長】 やっぱり、これから市街化調整区域というのは、ただ天神と同じように、全地域仕様ではなくて、そういう地域はそういう地域のソフト面での強み、ほかにはないものというのが大事になってくるのかなと思います。ちなみに、「海っ子山っ子」率も結構高いですよ。

【酒井教育長】 はい、高いです。

【高島市長】 相当高いですよ。

【酒井教育長】 はい。

【高島市長】 それが人口の移動にならなくて、中学卒業までいてくれば、それはいい話なんですけど。こういう改修時期に合わせて、一緒にソフト面も検討していただければと思いました。

さっきの授業を見てて、ああやって先生自身も、ある程度カンバセーションができる先生だったのかなと思うんですが。わからないんですけど。全部の英語の先生がああいうことができるのかどうか。

【町委員】 あそこに出てるのは、私のおそらく昔の教え子だと思いますね。

【松原委員】 教え子ですか。

【町委員】 JRにいたんですよ。旦那さんがお医者さんで、九大の先生で、アメリカも留学してるんですよ。ネイティブに近いですね。

【高島市長】 だから、多分これから教えていくとなると、先生自身もやっぱり自分自身の英語が。特にこれまでの英語は読んで書いてというところが中心だったのが、自発的にカンバセーションするという訓練は、もしかしたら先生もそんなにしてないかもしれない。以前、勉強したころはそうしてても、ずっと使ってないと、先生もぽっと出てこないかもしれない。これから英語の教員採用のときに、そういう点もぜひ見ていくのも大事なかなど。

【酒井教育長】 採用試験で実技もやっていますし、小学校の先生も、短時間ですけどネイティブスピーカーによる英語のやりとりとかやっています。英語の教員については、やっぱり質を高めていかなきゃいけないということもあって、国のほうでは、各市町村ごとにリーダーになるような人間を養成するというので、国の事業は始まっています。

そのほかに、福岡市で非常にユニークなのは、教職員互助組合というのがあって、そこからインターナショナルスクールの英会話コースに半額補助が出て、残り半額は、例のカフェテリアポイントも使うと結果的に手出しなしで英会話スクールが受けられるというのを導入していて、毎年70名ずつぐらいですけど受けております。特に小学生の先生を中心です。

【高島市長】 わかりました。引き続き、こういう新しいチャレンジにはKPIだとか、きちんと。新しいチャレンジですから、これがうまくいっているのかを見て、ぜひ内容をさらに深化をさせるように、これからもご尽力をよろしくお願いいたします。

【町委員】 CAPSなんかは、大学で今でもあれをやると一番反応がいいんですけど、これが子どもたちの時からできるようになるというのは、素晴らしいことではないかなと思うんですね。

【八尾坂委員長】 私は、今市長がネイティブの方がもっと必要とおっしゃったようですが、そういう意味から言うと、私が言うのも何ですが、そういうALTなどの人材を増やすというのは市の財政の中から、大変かどうかはわかりませんが必要なんじゃないかなと思います。

【舟越企画調整部長】 ありがとうございます。そろそろ時間が参ってございます。このあたりで意見交換会は終了とさせていただきます。

それでは最後に、その他でございます。全体を通じまして何かございますでしょうか。

【高島市長】 1個いいですか。5月に中学校の部活動の事故で生徒が亡くなられたということがありましたよね。それで、第三者委員会で調査をしたと思うんですが、その何か、経緯などが言えることがあったら。

【酒井教育長】 じゃあ、私のほうから。今、市長がおっしゃいましたとおり事故が起りまして、その直後に、救急医療専門のお医者様、それから法律関係ということで弁護士さん、それからあと柔道関係者、大学の先生などで福岡市柔道安全指導検討委員会というのを設置いたしました。

先日、11月5日に第4回を開催しまして、あと今月末にもう1回、12月に入っても

う1回で、ほぼ結論を出そうということで、現在、事故の検証ですとか再発防止策について非常に活発な議論をしていただいております。報告書がまとまりましたら、また市長にご報告させていただきたいと思っております。大体12月に入ってになると思います。

【高島市長】 わかりました。

【舟越企画調整部長】 そのほかございませんでしょうか。よろしゅうございますでしょうか。

(「なし」の声あり)

【舟越企画調整部長】 それでは、閉会に当たりまして、高島市長よりご挨拶をお願いいたします。

【高島市長】 今日は2回目の会議でしたが、大変有意義な意見交換をさせていただいて感謝いたします。これから、28年度の予算編成の作業に入るわけですが、とにかく子どもたちのためにしっかり連携をしていくのが大事だと思いますので、教育委員会としっかり意見交換しながら予算に反映させていきたいと思っております。今日はどうもありがとうございました。

【舟越企画調整部長】 これをもちまして、第2回総合教育会議を終了といたします。本日はありがとうございました。

— 了 —